

山形村における地形からみた水害危険箇所の抽出

平成 24 年 2 月 中村 美香

要旨

目的

土木に関する知識を持つ職員があまりいない小さな町や村では、洪水氾濫ハザードマップがまだ作成されていないところが多い。そのような自治体では、洪水氾濫ハザードマップがなくても、水害危険箇所をあらかじめ知り、それらに対する予防的な対策が望まれる。そこで、本研究では、長野県東筑摩郡山形村全域を対象とし、明治 43 年と平成 13 年の地形図を用いて、水害危険箇所となり得る場所を簡易的に抽出する。

方法

国土地理院発行の 1/25000 地形図と山形村役場発行の 1/10000 地形図を用いて、大まかな地形・合水線・道路上の水の流れ・土地利用変化・旧河川の 5 つの視点から水害危険箇所を予測し、最後にそれらをまとめて特に注意した方が良い場所を提案する。

結論

山形村における、地形からみた水害危険箇所が得られた。以下に示す場所において、危険度が高いことがわかった。

- [1] 上竹田の山麓から下大池の三間沢川と大池川の合流部付近までの範囲
- [2] 三間沢川と唐沢川の合流部付近

また、本研究を行ったことにより、洪水氾濫ハザードマップが整備されていない自治体において、限られたデータを使って、簡易的な作業を行うだけで、水害対策を考える際の参考となりうる情報が得られることを確認できた。

指導教員 豊田 政史 助教